

故岡本良知教授略歴・著作目録

張 祥 義 編

まえがき

故岡本教授追悼の心をあらはすため、張祥義氏の本稿を本紀要に掲載することになった。張氏は岡本教授が顧問として文献資料の収集に当られた亜細亜大学アジア関係資料室の助手として教授最晩年の教導を受けたので、教授没後本稿の作成に当たっていたのだが、短時日の調査のため多少の遺漏があるであらう。大方の御指摘を得て補正し、やがて完備したものにし、故教授の広大な学恩に報ずるせめてもの営みとしたい。

昭和四十七年十月十日

教養部長 夜久正雄

略 歴

義 祥

明治三十三年二月二十日 富山県富山市千石町二六九番地に生まる。

大正六年三月 富山県立富山中学校卒業。

張

大正八年四月 東京外国語学校ポルトガル語部入学。

大正九年四月 右同校スペイン語部専修科入学。

大正十一年三月 右同校ポルトガル語部卒業、スペイン語部専修科修了。

右のほか、大正八年より十年までの間にアテネ・フランスにてフランス語、ラテン語を修学し、大正十一年から十二年にかけて、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ市ベルリッツ語学校にてイタリア語を、昭和五年にはベルギーのリエージュ市ベルリッツ語学校にてオランダ語を修学する。

大正十一年三月 日本産業協会ブラジル国独立百年記念万国博覧会臨時出品部書記に命ぜられ、五月リオ・デ・ジャネイロに着任（大正十二年五月まで）。

大正十四年十二月 第一次日葡協会創立され、主事となる（昭和七年五月まで）。

昭和二年 日伯中央協会理事となる。

昭和五年八月 東西交渉史研究資料調査のため、フランス、ベルギー、スペイン、ポルトガル諸国へ二か年間旅行する。

昭和六年一月 ベルギー国独立百年記念万国科学工業博覧会事務部囑託に命ぜられ、同年十二月まで在任。

昭和八年四月 東京高等拓殖学校創立するに及び、教授を囑託さる（昭和九年四月まで）。

昭和十年四月 ポルトガル地理学会会員に推薦さる（終戦時まで）。

昭和十一年六月 第二次日葡協会主事となる（昭和十六年まで）。

昭和十三年四月 文部省第三拓殖訓練所専任講師ならびに宮崎高等農林学校講師となる（昭和十五年十月まで）。

- 昭和十六年二月 第二次日葡協会理事となる（終戦時まで）。
- 昭和十六年五月 日伯経済協会顧問となる（終戦時まで）。
- 昭和十七年四月 法政大学高等師範部講師となる（終戦時まで）。
- 昭和十八年四月 東亜研究所嘱託となる（終戦時まで）。
- 昭和十八年五月 株式会社東洋堂（出版事業）常務取締役となる（終戦時まで）。
- 昭和十八年五月 訳書「九州三侯遣欧使節行記」国民学術協会から推賞され、賞牌及び賞金を受く。
- 昭和二十四年 キリスト教渡来四百年記念事業執行委員に任ぜらる。
- 昭和二十六年四月 横浜市立大学兼任講師となる（昭和二十七年三月まで）。
- 昭和二十七年四月 立正大学専任講師となる（昭和二十九年三月まで）。
- 昭和二十七年七月 重要文化財保護臨時専門委員を任ぜらる。
- 昭和二十八年一月 開国百年記念中央実行委員会実行委員を任ぜらる。
- 昭和三十年四月 別府大学専任教授となる（昭和三十二年三月まで）。
- 昭和三十年九月 ポルトガル共和国政府より教育、文化の発展に貢献したるにより Official位 Santiago da Espada 勲章を授与さる。
- 昭和三十二年四月 亜細亜大学専任教授となる（担当科目 東西通商史、ポルトガル語）。
- 昭和三十六年十一月 ポルトガル文化国際アカデミーの招聘により渡欧す。
- 昭和三十八年十二月 ポルトガル共和国政府の招聘により約一か年渡欧す。

昭和四十年四月 上智大学兼任教授となる。

昭和四十六年 亜細亜大学アジア関係資料室顧問となり文献資料の収集に当る。

昭和四十七年三月 亜細亜大学教授を定年退職し、同年四月より亜細亜大学非常勤講師となる。

昭和四十七年八月六日 病気のため逝去す。

昭和四十七年八月六日 日本国政府より銀盃一ケを賜る。

昭和四十七年九月十七日 東京都雑司ヶ谷の本納寺に納骨さる。

著作目録

一、単行書の部

昭和四年四月 「初期耶蘇教徒編述日本語学書研究」 日葡協会

昭和五年十一月 「ポルトガルを訪ねる」 日葡協会

昭和六年十月 「*Jesuitas na Asia* 略記」 郁文堂

昭和七年九月 「長崎開港以前欧舶来往考」 日東書院

昭和七年 「フランススカン太閤謁見記」 郁文堂

昭和十一年十月 「十六世紀日欧交通史の研究」 弘文荘

昭和十三年四月 「ルイス・フロイス著日本史後編解題」

昭和十三年六月 「十六世紀世界地図上の日本」 弘文社

昭和十三年七月 *Segunda Parte da Historia de Japan, 1578—1582.* (編者註：ルイス・フロイスのポルト

ガル語原著『日本史』をポルトガル語のまま、当時東京外事専門学校教授ア・ピント氏と共に校訂付註) 日葡協会

昭和十七年一月 「天正十四年大阪城謁見記」 笠原書店

昭和十七年二月 *La Premiere Ambassade du Japon en Europe, 1582—1592.* (編者註：ルイス・フロイス

のポルトガル語原著『九州三侯遣欧使節行記』をア・ピント氏及び当時上海震旦大学教授アンリ・ベルナル氏と共にフランス語訳) 上智大学

昭和十七年 「九州三侯遣欧使節行記」 (編者註：ルイス・フロイスのポルトガル語原著を和訳し註を付す) 東洋堂

昭和十八年三月 「Schilling 日本における耶蘇会の学校制度」 (訳註) 東洋堂

昭和十九年五月 「中世モルッカ諸島の香料」 東洋堂

昭和二十年 「慶長二年日本二十六聖人殉教記録解説」

El Nippon y Filipinas sus Relaciones. 日本タイムス社

義 昭和二十一年七月 「漁村記」 東洋堂

祥 昭和二十三年一月 「桃山時代のキリスト教文化」 東洋堂

張 昭和二十三年 「天保八年浦賀鹿兒島渡来米船モリソン号航海日記」

昭和二十四年五月

「ザビエルと日本」 白鯨社

昭和二十四年六月

「九州三侯遣欧使節行記・続編」(編者註：アンリ・ベルナルル氏とア・ピント氏と共に訳編)

東洋堂

昭和二十四年八月

Outline of Nanban art. Chronology of Kirishitan (Early Christian era in Japan).

Letters of the society of Jesus. キリシタン文化研究会

昭和二十八年十一月

「吉利支丹洋画史序説」 昭森社

昭和二十九年三月

「元和年間伊達正宗遣欧使節史料について」(岩井大慧氏と共編) 東洋文庫

昭和三十年十二月

「南蛮屏風考」 昭森社

昭和三十八年十二月

「豊臣秀吉―南蛮人の記録による―」 中央公論社(中公新書)

昭和四十一年

「日本の美術」 平凡社

昭和四十五年十二月

「南蛮屏風」(高見沢忠雄氏と共著) 鹿島出版会

二、論文の部

大正十四年三月

「伯国移民と知識階級」 植民四ノ三

大正十四年五月

「パナマ地峡コロロン上陸の記」 植民四ノ五

大正十四年九月

「移民の素質向上の急務」 植民四ノ九

大正十四年十月

「聖フランシスコ・ザベリオ書簡記」(訳) 書誌一

大正十四年十二月

「天草図書館の逸本」 書誌二

大正十五年八月 「二つの吉利支丹文書」 書誌一ノ四

大正十五年十一月 「エウォラ図書館蔵アジア地図四葉に就きクリストワン・アイレス氏の解説」 (訳) 書誌二ノ一

大正十五年十一月(昭和二年十二月まで) 「アイレス著日本教会史抄」(一) (二) 書誌二ノ一ノ三

昭和二年三月 「ブラジル地名雑考」 東京外国語学校葡萄牙語同学会々報五

昭和二年五月 「四遣欧使節の帰朝」 (訳註) 思想六五

昭和二年六月 「十六世紀澳門及び日本における活字出版」 (訳) 思想六八

昭和二年十一月 「ポルトガル人種子島漂着の事実」 日葡協会『日葡交通の起源』所収

昭和三年ノ四月 「へいさらばさら考」(一) (四) 民俗学三ノ一、二、四ノ一ノ三

昭和四年六月 「ポルトガル人の日本初来とフェルナン・デ・ベルメンデス・ピント」 日葡交通一

昭和四年六月 「天文永祿年間における西国諸侯の印度交通」 日葡交通一

昭和四年六月 *Mendes Pinto e o Descobrimento do Japão.* 日葡交通一

昭和五年 「日本を始めて西洋に紹介した文献」 書物春秋三

昭和六年八月 「伯国文学の主流」 ブラジレイロ一六

昭和六年九月(昭和七年二月まで) 「欧亜交通初期に於ける奇薬竜涎香」 中外医事新報一一七二ノ二一八〇

昭和七年十月 「所謂ゴーレス問題への一寄与」 歴史地理六〇ノ四

昭和七年十月 「フランシスコ・ガリーの北太平洋探見記に見えたる日本」 史学二一ノ三

張

- 昭和八年四月 「蝦夷地へ渡った初めての歐洲人」 人情地理一ノ四（日欧交渉・文化特集号）
- 昭和八年五月 「ジパングよりジャパンへの推移」 史学一二ノ二
- 昭和八年六月 「離京する東洋学者ボクサー」 セルパン二八
- 昭和九年四月 「欧勢東漸の初めと日本人」 史学一三ノ一
- 昭和九年六月・七月 「十六世紀における日本人奴隸問題」（上）・（下） 社会経済史学四ノ三、四
- 昭和九年七月・八月 「ポルトガル船通商港の移動と耶蘇会及び西国諸侯の関係」（上）・（下） 歴史地理六四ノ一、二
- 昭和九年十一月 「十六世紀日葡貿易の研究」 社会経済史学四ノ八
- 昭和十年九月 「投銀に関する特殊の資料」 社会経済史学五ノ八
- 昭和十年十二月 「十六世紀後半のヨーロッパ人作世界地図上の日本の変遷」 歴史地理六六ノ六
- 昭和十一年三月 「一五九〇年以前に於ける日本フィリッピン間の交通と貿易」 史学一四ノ四
- 昭和十一年四月 「地理的に見た西欧人の日本認識発展小史」 国際観光四ノ二
- 昭和十一年五月 「天正年間における長崎の軍船（フスタ船）について」 軍事史研究一ノ二
- 昭和十一年九月 「ゴール人問題に就て」 歴史地理六八ノ三
- 昭和十二年四月 「中世丁香伝播考」 史学一六ノ一
- 昭和十二年四月・五月 「交通史上から見た日本地図の発達」(一)・(二) 教育五ノ四、五
- 昭和十二年六月 「動物結石伝播考」 社会経済史学七ノ三
- 昭和十二年七月 「動物結石の伝説」 本草学一

昭和十二年七月 「日本とヨーロッパとの関係」 誠文堂刊・田中一彦編『日本文化史大系』（安土桃山時代文化）

所収

昭和十二年十月 「媽港耶蘇会藏書目錄」 歴史地理七〇ノ四

昭和十三年五月 「フロイス日本史後篇に就て」 社会経済史学八ノ二

昭和十三年五月 「中世に於ける竜涎香」 小川香料時報一一ノ五

昭和十三年十月 「欧人東漸当初の太平洋の交通」 交通文化四

昭和十四年一月 「肉桂史の一考察」 小川香料時報二二ノ一

昭和十四年四月・十月 「支那到来の胡椒」(一)・(二) 交通文化六、八

昭和十五年二月 「イスパニア」 富山房発行『国史辞典』第一卷所収

昭和十五年四月 「天正遣欧使節記の一本に就て」 史学一八ノ四

昭和十五年十二月 「南蛮屏風の異国的内容」 史学一九ノ三

昭和十六年三月 「ヴィニャサ伯の支那日本語書誌復刻」 学鑑四六ノ三

昭和十六年三月 「北太平洋の金銀島」 地理学九ノ三

昭和十六年十二月二十九日 「香港勸降の通訳ボクサー参謀少佐を語る」 東京日日新聞

昭和十七年二月 「ゴア」 富山房発行『国史辞典』第三卷所収

昭和十七年六月 「バルボーザ東印度誌の諸伝本」 学鑑四六ノ六

昭和十七年 「最初の太平洋航海」 交通文化二〇

義 祥 張

昭和十八年一月 「香料と文化」 小川香料時報一六〇一

昭和十八年三月 「十六・十七世紀日本関係文書」 (訳) 日葡交通二

昭和十八年 「マジエランのフィリップン渡来」 交通文化

昭和十九年十二月 「ルイス・セルケイラの三書簡」 (訳) キリシタン研究二

昭和二十二年六月 「天正末における耶蘇会の軍備問題」 国民の歴史一ノ五

昭和二十二年九月 *Il Cerimoniale per i Missionari del Giappone di Alessandro Valignano.* 国民の歴史一ノ八

昭和二十三年七月 「日本耶蘇会とフィリップンの諸修道会との論争——二六人の聖人殉教の遠因」 キリシタン研究三

昭和二十四年三月十五・十六日 「聖フランシスコ・ザビエル鹿児島渡来機縁」 (キリスト教伝来四百年祭記念)

夕刊九州タイムス

昭和二十四年四月 「ザビエル書翰集諸本について」 日本古書通信一四ノ四

昭和二十四年五月二十二日 「日本遣欧使節評判記」 読売新聞

昭和二十四年五月二十九日 「初期日本西洋美術展覧会」 カトリック新聞

昭和二十四年五月・六月 「国立博物館所蔵キリシタン書」 国立博物館ニュース三三、二二五

昭和二十四年六月五日 「キリシタン文化展」 カトリック新聞

昭和二十四年六月 「十六・十七世紀における日本司教増置問題」 史学二四ノ一 (ザビエル研究特輯)

昭和二十四年六月 「聖フランシスコ・ザビエルの足跡」 旅二三ノ六

昭和二十四年六月 *Saint Francisco Xavier in Japan.* Travel News 四ノ五

- 昭和二十四年九月四日・十一日 「キリスト教西洋文化展覧会」 カトリック新聞
- 昭和二十五年一月 「キリシタンと茶道」 須貴二ノ一
- 昭和二十五年十月 「十七世紀初めの古写日本図」 日本歴史二九
- 昭和二十七年二月 「ベルナルディノ・デ・アピラの日本記について」 歴史地理八三ノ一
- 昭和二十七年二月 「天正使節評判記の一珍本」 日本歴史四五
- 昭和二十七年三月 「天正遣欧使節記」 *Museum* (上野博物館) 三六
- 昭和二十七年四月 「初期洋画の育成」 史学雑誌六一ノ四
- 昭和二十八年三月 「天保八年渡来モリソン号の航海記」 学鑑五〇ノ三
- 昭和二十八年 「ヴァチカン文書」 基督教史学四
- 昭和二十九年二月 「ファン・デ・ソリス事件」 歴史地理八四ノ三
- 昭和二十九年三月 「耶蘇会誌フランシスコ・ザビエル記念号を読んで」 学鑑五一ノ三
- 昭和二十九年十二月 「ロドリゲスと茶道」 ソフィア三ノ四
- 昭和三十一年二月 「新刊の天理図書館キリシタン関係洋書目録より」 日本古書通信二二ノ二
- 昭和三十一年七月 「Japan という語の由来」 日本歴史九七
- 昭和三十一年九月 「近世初期の南方関係」 歴史教育四ノ九
- 昭和三十一年十二月 「天正年間に於ける豊後耶蘇会学校の建築様式」 別府大学紀要六
- 昭和三十一年 「戦国時代の豊後府内港」 大分県地方史一〇

昭和三十一年 「ロドリゲス日本大文典」 国語学二三

昭和三十二年 「山田憲太郎著『東西香葉史』を読んで」 大阪史談二

昭和三十三年五月 「一五八五年レッヂオ版天正遣欧使節記」 大分県地方史研究一三・一四・一五・一六合併号(大友宗麟特輯)

昭和三十四年三月 「日本学術会議文庫蔵キリシタン文書解説」 キリシタン研究五

昭和三十六年五月 「イエズス会本部所蔵日本人キリシタン書翰」(編者註：柳谷武夫氏とチースリク氏との共訳) キリシタン研究六

昭和三十七年一月 「戦国時代の豊後府内港」『山田孝雄追憶史学語学論集』(宝文館)所収

昭和三十九年 「フロイス著柳谷武夫訳『日本史』」キリシタン研究会々報七ノ三、四

昭和三十九年 *Desenvolvimento Cartográfico da parte Extrema Oriente da Asia pelos Jesuitas Portugueses em Fins do século XVI. Studia Nos. 13—14—Jan.—Jul.*

昭和四十一年九月 「明治初年の或る写真アルバム」文学散歩二五(明治村記念号)

昭和四十二年三月 「先覚者村上博士」キリシタン研究(村上博士追悼記念号)

昭和四十三年六月十日 *Portuguese life old Japan portrayed on foldings. Japan Times*

昭和四十五年一月 「続・戦国時代の豊後府内港」大分県地方誌五四・五五号合併号

以上